

家庭系ごみ（燃やせるごみ）組成分析調査

平成 2 3 年 9 月

1. 調査概要

(1) 調査目的

本調査では、生活ごみの組成項目の変動を確認するとともに、特に燃やせるごみとして排出されるもののうち、減量化・資源化が可能なものや不燃物の混入状況及び各品目分別割合を明らかにし、ごみの減量化・資源化に向けての基礎資料とすることを目的とした。

(2) 調査内容

ア 調査対象ごみ

燃やせるごみ

イ 調査対象地区

大町、黄金町東、江部乙町農村地区

※地区選定については、市街地地区と農村地区に分け、それ以外は無作為抽出

ウ 調査時期

地区名	収集日	分析日	分析場所
大町	9月15日(金)	9月22日(木)	粗大ごみセンター
黄金町東	9月20日(火)		
江部乙町(農村地区)	9月21日(水)		

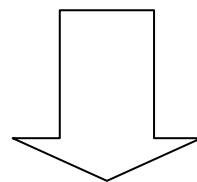
(3) 調査方法

本調査では、減量化・資源化が可能なものや重量等を確認する必要性から家庭から排出された状態を保つように、パッカー車に追尾し市職員による無作為に収集を行った。

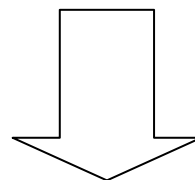
調査手順



地区ごとに重量計測

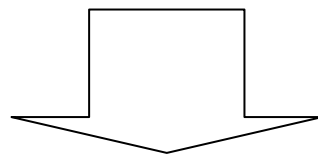


地区ごとに品目別分類





品目別重量計測



サンプル廃棄

(4) 調査項目

大分類	中分類	小分類	具体例
紙 類	容器包装	紙パック	 牛乳やジュースなどの紙パック
		食料品容器	 菓子箱類等
		日用品容器	 テイシュ、石鹸等の箱
	容器包装以外	ダンボール	ダンボール
		新聞	チラシ含む
		書類・雑誌類	週刊誌、単行本等
		雑紙	ダイレクトメール、はがき等 名刺以上の大きさのもの
		その他の紙類	レシート、トイレットペーパー等の芯等
プラスチック類	容器包装	トレイ	発泡系トレイ
		食料品の容器・包装	 豆腐、カップめん、弁当等の容器。菓子、ラーメン等の袋
		日用品の容器・包装	 食用油、洗剤等の容器
		チューブ類	 マヨネーズ、歯磨き粉等
	容器包装以外	その他のプラスチック	上記以外のプラスチック
草木類	草木類	剪定枝	剪定枝、草等
		その他	割り箸、木箱等
繊維類	繊維類	衣類等	Yシャツ、タオル等
その他	その他	ゴム・皮革	かばん、靴等
		その他	上記以外の可燃ごみ
可燃不適合物	可燃不適合物	可燃不適合物	可燃不適合物

2. 調査結果について

(1) 1袋当たりの重量

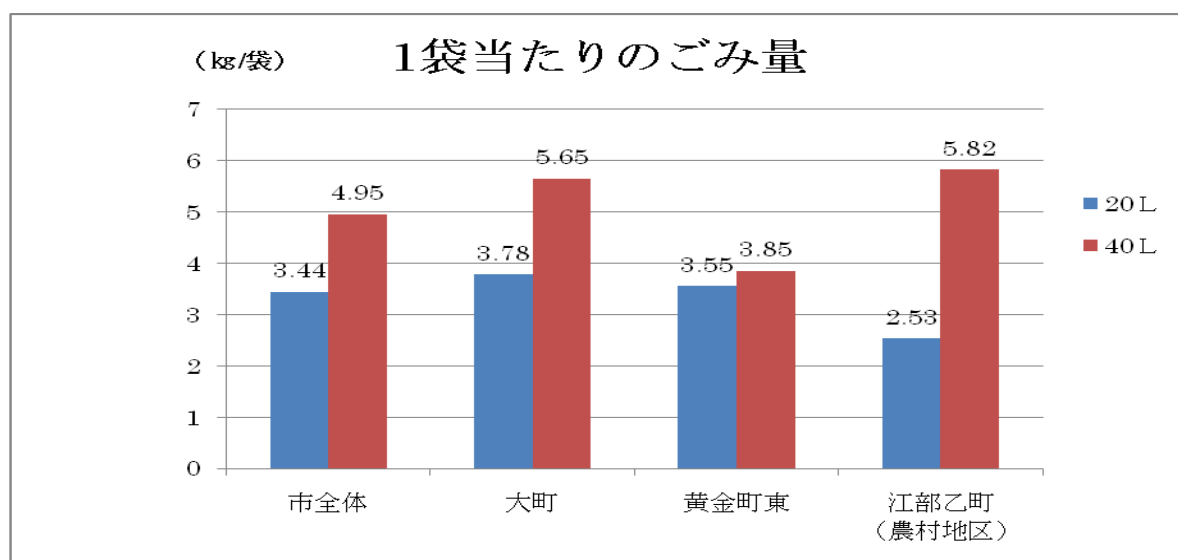
燃やせるごみ1袋当たりのごみ量を表1-1に、その分布状況を図1-2に示した。

20ℓ袋は、1袋につき1.8kg～6.2kg、40ℓ袋は2.5kg～10.8kgであり、平均的な1袋当たりのごみ量は、20ℓ袋3.44kg、40ℓ袋4.95kgであった。

表1-1 1袋当たりのごみ量

袋種別	収集地区	総重量 (kg)	袋の数 (袋)	ごみ量 (kg/袋)	集 計
20ℓ袋	大町	34.1	9	3.78	総重量 : 65.5 kg 総袋数 : 19 袋 ごみ量 : 3.44 kg/袋
	黄金町東	21.3	6	3.55	
	江部乙町 (農村地区)	10.1	4	2.53	
40ℓ袋	大町	11.3	2	5.65	総重量 : 69.3 kg 総袋数 : 14 袋 ごみ量 : 4.95 kg/袋
	黄金町東	23.1	6	3.85	
	江部乙町 (農村地区)	34.9	6	5.82	

図1-2 1袋当たりのごみ量の状況



(2) 全域（3 地区）のごみ組成について

大分類における全域（3 地区）のごみ組成割合を図 2-1 に示した。

大分類の重量割合は、紙類が 38.7%と最も多く、次いでプラスチック類 36.3%、であった。

図 2-1 全域（3 地区）のごみ組成割合（大分類）

大 分 類	重 量 (kg)	重 量 比 (%)
紙類	52.2	38.7
プラスチック類	48.9	36.3
草木類	7.0	5.2
繊維類	11.5	8.5
その他	4.2	3.2
可燃不適合物	11.0	8.1
合 計	134.8	100

中分類における全域（3 地区）のごみ組成割合を図 2-2 に示した。

中分類の重量割合は、プラスチック類容器包装が 33.8%と最も多く、次いで紙類容器包装以外 22.2%、紙類容器包装 16.5%であった。

図 2-2 全域（3 地区）のごみ組成割合（中分類）

中 分 類	重 量 (kg)	重 量 比 (%)
紙類容器包装	22.2	16.5
紙類容器包装以外	30.0	22.2
プラスチック類容器包装	45.5	33.8
プラスチック類容器包装以外	3.4	2.5
草木類	7.0	5.2
繊維類	11.5	8.5
その他	4.2	3.2
可燃不適合物	11.0	8.1
合 計	134.8	100

小分類における全域（3地区）のごみ組成割合を図2-3に示した。

小分類の重量割合は、雑紙が17.7%と最も多く、次いでプラスチック製食料品の容器包装が16.0%であった。

図2-2 全域（3地区）のごみ組成割合（小分類）

小 分 類	重 量 (kg)	重 量 比 (%)
紙パック	5.2	3.9
紙製食料品容器包装	9.3	6.9
紙製日用品容器包装	7.7	5.7
ダンボール	0	0
新聞	0	0
書類・雑誌類	0	0
雑紙	23.8	17.7
その他の紙類	6.2	4.6
トレイ	9.3	6.9
プラスチック製食料品の容器包装	21.6	16.0
プラスチック製日用品の容器包装	12.0	8.9
プラスチック製チューブ類	2.6	1.9
その他のプラスチック	3.4	2.5
剪定枝	7.0	5.2
その他	0	0
衣類等	11.5	8.5
ゴム・皮革	4.2	3.2
その他	0	0
可燃不適合物	11.0	8.1
合 計	134.8	100

(3) 大町地区のごみ組成について

大町地区のごみ組成割合を図 3-1 に示した。

大分類の重量割合は、プラスチック類 41.9%と最も多く、次いで紙類が約 37.4%であった。

図 3-1 大町地区のごみ組成割合 (大分類)

大 分 類	重 量 (kg)	重 量 比 (%)
紙類	17.0	37.4
プラスチック類	19.0	41.9
草木類	2.1	4.6
繊維類	1.6	3.5
その他	1.5	3.3
可燃不適合物	4.2	9.3
合 計	45.4	100

中分類における大町地区のごみ組成割合を図 3-2 に示した。

中分類の重量割合は、プラスチック類容器包装が 39.4%と最も多く、次いで紙類容器包装以外 24.3%、紙類容器包装 13.2%であった。

図 3-2 大町のごみ組成割合 (中分類)

中 分 類	重 量 (kg)	重 量 比 (%)
紙類容器包装	6.0	13.2
紙類容器包装以外	11.0	24.3
プラスチック類容器包装	17.9	39.4
プラスチック類容器包装以外	1.1	2.4
草木類	2.1	4.6
繊維類	1.6	3.5
その他	1.5	3.3
可燃不適合物	4.2	9.3
合 計	45.4	100

小分類における大町地区のごみ組成割合を図 3-3 に示した。

小分類の重量割合は、雑紙が 19.7%と最も多く、次いでプラスチック製食料品の容器包装が 18.9%であった。

図 2-2 大町地区のごみ組成割合 (小分類)

小 分 類	重 量 (kg)	重 量 比 (%)
紙パック	1.6	3.5
紙製食料品容器包装	2.5	5.5
紙製日用品容器包装	1.9	4.2
ダンボール	0	0
新聞	0	0
書類・雑誌類	0	0
雑紙	8.9	19.7
その他の紙類	2.1	4.6
トレイ	3.9	8.6
プラスチック製食料品の容器包装	8.6	18.9
プラスチック製日用品の容器包装	4.5	9.9
プラスチック製チューブ類	0.9	2.0
その他のプラスチック	1.1	2.4
剪定枝	2.1	4.6
その他	0	0
衣類等	1.6	3.5
ゴム・皮革	1.5	3.3
その他	0	0
可燃不適合物	4.2	9.3
合 計	45.4	100

(4) 黄金町東地区のごみ組成について

黄金町東地区のごみ組成割合を図 4-1 に示した。

大分類の重量割合は、紙類 43.0%と最も多く、次いでプラスチック類が約 35.4%であった。

図 4-1 黄金町東地区ごみ組成割合 (大分類)

大 分 類	重 量 (kg)	重 量 比 (%)
紙類	19.1	43.0
プラスチック類	15.7	35.4
草木類	2.4	5.4
繊維類	2.3	5.2
その他	1.2	2.7
可燃不適合物	3.7	8.3
合 計	44.4	100

中分類における黄金東地区のごみ組成割合を図 4-2 に示した。

中分類の重量割合は、プラスチック類容器包装が 32.9%と最も多く、次いで紙類容器包装以外 25.9%、紙類容器包装 17.1%であった。

図 4-2 黄金東地区のごみ組成割合 (中分類)

中 分 類	重 量 (kg)	重 量 比 (%)
紙類容器包装	7.6	17.1
紙類容器包装以外	11.5	25.9
プラスチック類容器包装	14.6	32.9
プラスチック類容器包装以外	1.1	2.5
草木類	2.4	5.4
繊維類	2.3	5.2
その他	1.2	2.7
可燃不適合物	3.7	8.3
合 計	44.4	100

小分類における黄金町東地区のごみ組成割合を図 4-3 に示した。

小分類の重量割合は、雑紙が 21.0%と最も多く、次いでプラスチック製食料品の容器包装が 15.5%であった。

図 4-3 黄金町地区のごみ組成割合 (小分類)

小 分 類	重 量 (kg)	重 量 比 (%)
紙パック	1.9	4.3
紙製食料品容器包装	3.2	7.2
紙製日用品容器包装	2.5	5.6
ダンボール	0	0
新聞	0	0
書類・雑誌類	0	0
雑紙	9.3	21.0
その他の紙類	2.2	5.0
トレイ	2.9	6.5
プラスチック製食料品の容器包装	6.9	15.5
プラスチック製日用品の容器包装	3.9	8.8
プラスチック製チューブ類	0.9	2.0
その他のプラスチック	1.1	2.5
剪定枝	2.4	5.4
その他	0	0
衣類等	2.3	5.2
ゴム・皮革	1.2	2.7
その他	0	0
可燃不適合物	3.7	8.3
合 計	44.4	100

(5) 江部乙地区（農村地区）のごみ組成について

江部乙地区（農村地区）のごみ組成割合を図 5-1 に示した。

大分類の重量割合は、紙類 35.8%と最も多く、次いでプラスチック類が約 31.5%であった。

図 5-1 江部乙地区（農村地区） ごみ組成割合 （大分類）

大 分 類	重 量 (kg)	重 量 比 (%)
紙類	16.1	35.8
プラスチック類	14.2	31.5
草木類	2.5	5.6
繊維類	7.6	16.9
その他	1.5	3.3
可燃不適合物	3.1	6.9
合 計	45.0	100

中分類における江部乙地区（農村地区）のごみ組成割合を図 5-2 に示した。

中分類の重量割合は、プラスチック類容器包装が 28.9%と最も多く、次いで紙類容器包装 19.1%、繊維類 16.9%であった。

図 5-2 江部乙地区（農村地区）のごみ組成割合 （中分類）

中 分 類	重 量 (kg)	重 量 比 (%)
紙類容器包装	8.6	19.1
紙類容器包装以外	7.5	16.7
プラスチック類容器包装	13.0	28.9
プラスチック類容器包装以外	1.2	2.6
草木類	2.5	5.6
繊維類	7.6	16.9
その他	1.5	3.3
可燃不適合物	3.1	6.9
合 計	45.0	100

小分類における江部乙地区（農村地区）のごみ組成割合を図 5-3 に示した。

小分類の重量割合は、衣類等が 16.9%と最も多く、次いでプラスチック製食料品の容器包装が 13.5%、雑紙が 12.4%であった。

図 5-3 江部乙地区（農村地区）のごみ組成割合（小分類）

小 分 類	重 量 (kg)	重 量 比 (%)
紙パック	1.7	3.8
紙製食料品容器包装	3.6	8.0
紙製日用品容器包装	3.3	7.3
ダンボール	0	0
新聞	0	0
書類・雑誌類	0	0
雑紙	5.6	12.4
その他の紙類	1.9	4.2
トレイ	2.5	5.6
プラスチック製食料品の容器包装	6.1	13.5
プラスチック製日用品の容器包装	3.6	8.0
プラスチック製チューブ類	0.8	1.8
その他のプラスチック	1.2	2.7
剪定枝	2.5	5.6
その他	0	0
衣類等	7.6	16.9
ゴム・皮革	1.5	3.3
その他	0	0
可燃不適合物	3.1	6.9
合 計	45.0	100

3. 本市の課題について

今回のごみ組成調査結果に基づき以下の点にまとめた。

①今回のごみ組成分類（小分類）では、雑紙が約 18%と高く、現在、古紙類（ダンボール、新聞、チラシ雑誌、紙パック）の分別収集が行われていることから、この部分のリサイクル・資源化を推進することにより、可燃ごみ量は低減できるものと考ええる。

なお、今回の調査において古紙類は、紙パックが約 4%以外は、ダンボール、新聞紙、雑誌類は含まれておらず、昨年から行われている古紙類回収や資源集団回収による効果であると考ええる。

②次にプラスチック製食料品の容器包装が約 16%と多く、日用品容器包装、チューブ類と合わせると約 27%と全体のごみ量の 1/4 以上占めていることから、資源化・減量化の対応が今後の検討課題と考える。

